

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立甲奴小学校		
学校長氏名	湯浅 るみ	栄養教諭氏名	村上 恵美子
職員数	13名	児童・生徒数	85名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ほとんどの児童が給食を残さず食べている。
- 食に関する興味・関心が年々高まってきている。
- 正しい食事のマナー（姿勢・箸）が定着していない児童がいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 食教育目標
食事や自らの健康に関心を持ち、進んで望ましい生活習慣を身につけようとする児童を育てる
- 学校自己評価表・指標
給食の時、食器・箸の持ち方のきまりやよい姿勢で食べるなどのマナーを守って食べる児童の割合
【目標値】 7月：50% 12月：70%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 食事マナーの向上及び定着（正しい姿勢で食べる）

- 給食時間における指導
学級担任による日々の指導のほか、養護教諭と栄養教諭による給食指導を実施した。正しい姿勢のポイントや食器の持ち方、食べ物の消化などについて、各学年において指導した。
- 外部講師による立腰指導
2学期初日に立腰指導に来ていただき、正しい座り方・姿勢について指導を受けた。指導後は1・3・5校時の開始時に「腰骨を立てましょう」のかけ声で、正しい姿勢の定着を図った。授業中の姿勢だけでなく、食事にも姿勢を意識する児童が見られるようになった。

【取組2】（テーマ） 食事マナーの向上及び定着（正しい箸の持ち方・使い方）

- 給食時間における指導
学級担任による日簿の指導のほか、養護教諭と栄養教諭による給食指導を実施した。正しい持ち方、正しい使い方、してはいけない使い方、魚の食べ方などについて指導した。
- 食育コーナーでの体験
食育コーナーに豆つかみセットを用意し、1分間での豆つかみに挑戦し、児童が記録できるようにした。記録をもとに、月間のお箸名人を掲示板にて発表・表彰した。
- たてわり班給食の実施
たてわり班による給食を実施し、箸の持ち方や食べる姿勢など個別に状況を把握した。把握した内容は学級担任へ伝え、学級での指導にいかすことができた。
- 食育参観日においても箸の持ち方について学習し、家庭への連携をお願いした。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○夏休み親子クッキング教室の開催

三次市教育委員会と連携し、ひろしま給食メニューの調理及び試食を行った。市内栄養教諭及び学校栄養職員がひろしま給食の概要説明、レシピ紹介、食材調達などを分担して実施した。地場産物を活用した学校給食の取組やひろしま給食の啓発ができた。「また参加したい」「家でもつくりたい」との声も聞かれひろしま給食への興味・関心を高めることができた。



○ひろしま給食100万食プロジェクト出前講座

1月23日食育参観日において、環境県民局文化芸術課との連携事業である出前講座を開催した。4・5年生の合同授業で、プロの料理人からだしの取り方の基本を学び、直接指導を受けながら「さわらのほりはり煮」を調理した。保護者の参観もあり、家庭での食事について改めて考えるよい機会となった。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- 立腰指導が定着し、正しい姿勢を意識する児童が増え、12月の時点で73%の児童がよい姿勢で食事をすることができるようになった。
- 箸を正しく持とうという意欲の高まりがみられ、12月には68%の児童が正しく箸を持てるようになった。また、声をかけると正しく持てる児童が増えた。
- 給食の時、食器・箸の持ち方のきまりやよい姿勢で食べるなどのマナーを守って食べる児童の割合について、目標値を達成できた（7月：57.6% → 12月：70.5%）。
- 保護者アンケートにおいて、「食事のマナー（箸・配膳）が身につけている」という項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた家庭が、1学期69% → 2学期76%と増えた。

【課題】

- 姿勢・箸の持ち方ともに7割程度の児童ができるようになったが、正しい姿勢及び箸の持ち方ができない児童が固定化している。
- 箸の持ち方については、声かけをしなければできない児童もいる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- 正しい姿勢や箸の持ち方ができない児童について、モチベーションを高める工夫や家庭との連携した取り組みをすすめ、定着を図る。
- 生産者や給食に関わる人との交流を持ち、感謝の気持ちや自分たちの食について関心を寄せる児童の育成を目指す。